

平成 28 年度第 2 回（一社）日本生物物理学会理事会議事録

日時：2016 年 9 月 3 日（土）12:30~16:00

場所：大阪大学産業科学研究所・永井研究室、東京大学分子細胞生物学研究所
本館 206 号室ほか（TV 会議）

出席者：理事総数 18 名 出席理事 13 名（代表理事を含む）

代表理事（会長）	中村 春木	理事（副会長）	高橋 聡
理事（副会長）	永井 健治	理事	新井 宗仁
理事	石島 秋彦	理事	内橋 貴之
理事	大上 雅史	理事	佐甲 靖志
理事	佐藤 竜馬	理事	根岸 瑠美
理事	野地 博行	理事	広瀬 恵子
理事	古谷 祐詞		

監事総数 2 名 出席監事 1 名

監事 有坂 文雄

オブザーバー：

邦文誌編集委員長	神取 秀樹
欧文誌編集委員長	石渡 信一
ホームページ編集委員長	北尾 彰朗
平成 28 年度年会実行委員長	豊島 陽子
平成 29 年度年会実行委員長	山縣 ゆり子

陪席者：

学会事務局 向井 牧子

議長：代表理事（会長） 中村 春木

議事録作成者： 理事 佐藤 竜馬

理事 大上 雅史

報告事項および審議事項

報告事項：

1. 平成 28 年度年会準備状況 (豊島) 資料：報 1
2. 平成 29 年度年会準備状況 (山縣) 資料：報 2
3. 平成 30 年度年会準備状況 (中村) 資料：報 3
4. 出版委員会報告 (永井) 資料：報 4
5. 科研費活動報告 (石渡) 資料：報 5
6. 男女共同参画・若手支援委員会報告 (高橋) 資料：報 6
7. 男女共同参画学協会連絡報告 (高橋) 資料：報 6
8. 啓蒙活動報告 (広瀬・根岸) 資料：報 8
9. 賞・助成金推薦委員会報告 (永井) 資料：報 9
10. 日本学術会議生物物理学会・IUPAB 合同分科会について (中村) 資料：報 10
11. IUPAB・ABA 関連報告 (野地) 資料：なし
12. 総会シンポジウム準備状況報告 (野地) 資料：なし
13. 日本生理学会大会における共催シンポジウムについて (中村) 資料：報 13
14. 定款変更登記完了報告 (中村) 資料：報 14
15. 地区報告 (会計報告書類の確認)
 - 北海道 資料：報 15-1
 - 東北 資料：報 15-2
 - 関東 資料：報 15-3
 - 中部 資料：報 15-4
 - 中国四国 資料：報 15-5
 - 九州 資料：報 15-6

その他

審議事項：

1. 分子生物学会と生化学会の合同大会について (中村) 資料：議 1
2. 平成 31 年 (2019 年) 年会開催地について (中村) 資料：議 2
3. 出版委員会関連議題 (永井) 資料：議 3
4. 男女共同参画若手支援関連議題 (高橋) 資料：議 4
5. 啓蒙活動関連議題 (広瀬・根岸) 資料：議 5
6. 生物科学学会連合次期代表候補者の推薦 (中村) 資料：議 6
7. 企業との連携について (ランチョンセミナー、意見交換会) (中村) 資料：なし
8. 予稿集の J-Stage 掲載について (中村) 資料：議 8
9. 臨時社員総会の招集について (中村) 資料：議 9

その他

定足数の確認：

理事会の審議に先立ち、議長中村春木氏より、定足数のご報告があった。

理事総数 18 名のうち出席者 13 名により過半数を超えた。

定款第三十二条（決議）

理事会の決議は、決議について特別な利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

報告事項：

1. 平成 28 年度年会準備状況（豊島）資料：報 1

豊島年会実行委員長からつくば年会の準備状況について報告があった。

8 月 22 日に事前参加登録を締め切り、事前参加登録者数は 1271 件であった。演題数：シンポジウム 34 件（二国間交流のシンポジウムを含む）。講演数：207 件、ポスター発表：937 件。若手奨励賞の応募数：42 件、学生発表賞の応募数：129 件。懇親会：565 件（当初の見込みより一割程度増）。市民講演会は駒場で 11 月 5 日に開催する。講演者は金子邦彦氏、野地博行氏。複雑生命システム動態教育研究拠点「後援」とプログラム集やポスターに記載して良いかどうかを審議し、承認された。キャリア支援説明会について、年会実行委員会と男女共同参画若手支援委員会の合同で準備を進めている。日時は、年会初日に男女共同参画若手シンポジウムをランチョンセミナーの時間に開催し、続いて同日の 13 時からキャリア支援説明会を開催する。また、年会二日目は一日かけて、年会初日と同会場でキャリア支援説明会を開催する。内容については株式会社レゾナンスの前田氏に一任している。初日のプログラムは、第 1 部：キャリアデザインセミナー、第 2 部：業界説明、協賛企業の紹介および交流会、第 3 部：企業分析術の基礎、二日目の第 4 部、第 5 部は初日の第 2 部、第 3 部と同じ。第 6 部：協賛企業によるブース形式の説明会。

2. 平成 29 年度年会準備状況（山縣）資料：報 2

山縣年会実行委員長から熊本年会の準備状況について報告があった。実行委員会組織に加わる実行委員が決定した。懇親会は ANA ホテルで開催する。年会会場から離れているためバスをチャーター。市民講演会を開催する予定。熊本県は女性の大学進学率が低いため、JST の理系選択事業が何回か採択されている。そのため、女子中高生をターゲットとした企画を行いたい。研究成果公開發表 B：科研費（研究成果公開促進費）の制度がある。生物系は力を入れて申請しており競争率は高いが、申請を考えている。学会として応募可能。申請額の最大は 150 万円。シンポジウム等に新学術との共催を考えている。以前、タンパク質科学会と生物物理学会は似ているという感想があったようだが、熊本年会でも共催シンポジウムを依頼する予定。日本バイオインフォマティクス学会からシンポジウムを共催できないかという打診があった。日本物理学会との年会開催日の日程調整中。

3. 平成 30 年度年会準備状況（中村）資料：報 3

中村会長から岡山年会の準備状況について報告があった。委員会を 3 回開催している。年会開催日程が 2018 年 9 月 15 日～17 日に決定。ホテルを 500 室ほど確保済み。岡山ロイヤルホテルと懇親会の打ち合わせが行われた。

4. 出版委員会報告（永井）資料：報 4

永井副会長より出版委員会における報告があった。邦文誌編集委員会について第 2 回会誌編集委員会が 2016 年 6 月 30 日に中西印刷京都本社で開催された。進行状況の確認および新規依頼原稿提案の審議を行った。BPPB 誌の投稿数は昨年度並みである。掲載料・ページチャージ無料キャンペーンについて、現在、キャンペーン対象論文は 9 編。無料枠は「あと 4 編」（9 月現在）。BPPB 誌の Editorial Board メンバーの見直しについて、Jie Xiao 氏と Sungchul Hohug 氏の 2 名に就任依頼をしたところ快諾いただいた。邦文誌編集委員会、欧文誌編集委員会とホームページ監修委員会から報告があった。邦文誌編集委員会からは、生物物理学会として生物物理の教科書を作成してみてもどうかという議論があったとの報告があり、今後作成することで検討を進めていくこととした。欧文誌編集委員会からは BPPB 誌採択数について報告があり、最近は増えつつあるとのことであった。前述の通り、BPPB 誌の Editorial Board メンバーの見直しが行われた。追悼号についても報告があった。

5. 科研費活動報告（石渡）資料：報 5

石渡氏より科研費活動の報告があった。9 月 7 日に小松崎氏、水上氏と京都事務局の向井氏が平成 29 年度科学研究費助成事業公募要領に関する個別相談会に参加する予定。

6. 男女共同参画・若手支援委員会報告（高橋）資料：報 6

高橋副会長より男女共同参画・若手支援委員会について報告があった。男女共同参画学協会連絡会において大規模アンケートを 10 月 8 日から 2 週間で行う。多くの方からの回答が欲しいためお声がけをお願いしたい。一斉メールで会員に送られてくる。

7. 男女共同参画学協会連絡会報告（高橋）資料：報 6

高橋副会長より男女共同参画学協会連絡会について報告があった。第 14 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが 10 月 8 日に開催される予定。

8. 啓蒙活動報告（広瀬・根岸）資料：報 8

根岸氏より啓蒙活動について報告があった。一家に一枚ポスターを各支部・若手の会へ送付。小中高へのセミナー講師派遣事業について立ち上げ準備中（ウェブサイトの作成、講師募集メールの作成、講師登録要旨の作成）。窓口は京都事務局の向井氏が担当する。

9. 賞・助成金推薦委員会報告（永井）資料：報 9

永井副会長より賞・助成金推薦委員会について報告があった。平成 29 年度科学技術分野の文部科学大臣賞「若手科学者賞」に豊田 正嗣氏、2016 年度朝日賞に濡木 理氏、平成 28 年度上原賞に野地 博行氏を推薦した。また、第 33 回井上學術賞に永井 健治氏を推薦することが決定している。助成の採択について、2016 年度山田科学振興財団研究援助に村越 秀治氏の研究が採択された。第 3 回日本光生物学協会招待講演・奨励賞の招待講演に須藤 雄気氏が採択された。

10. 日本学術会議生物物理学・IUPAB 合同分科会について（中村）資料：報 10

中村会長より日本学術会議生物物理学・IUPAB 合同分科会について報告があった。マスタープランについて、ヒアリングまで採択された。統合バイオイメージング研究所の設立計画について難波氏が資料作成中。2016 年 9 月 17 日にヒアリングが行われる。

11. IUPAB・ABA 関連報告（野地）資料：なし

野地氏より日本学術会議生物物理学・IUPAB 合同分科会について報告があった。平成 28 年 8 月 22 日に会議が開催された。IUPAB の誘致活動について、沖縄を会場として IUPAB を誘致する活動を行ったが不採択であった。2017 年のエジンバラで二回目の誘致活動を行う予定。それにあたり、誘致する場所として京都、東京、神戸、札幌の会場費を見ながら選定を進めている。ワーキンググループを設け、将来 IUPAB を担当されるような会員を選びたいと考え、上村 想太郎氏、飯野 亮太氏、林 久美子氏、永井 健治氏を選出した。現 IUPAB 会長の Zihe Rao 氏に IUPAB の日本誘致を後押ししてもらえるように進めたい。

12. 総会シンポジウム準備状況（野地）資料：なし

野地氏より総会シンポジウムの準備状況について報告があった。

13. 日本生理学会大会における共催シンポジウムについて（中村）資料：報 13

中村会長より日本生理学会大会における共催シンポジウムについて報告があった。日本生理学会より共催シンポジウムの打診があり、福田紀男氏に連携した場合のメリット等を質問した。回答は「生理学と生物物理学が融合し、新しい学問、知が創生される可能性があるため」、「生理学会には多くの生物物理学会員が参加しており、連携シンポジウムというものがあればそれは確実に生物物理学会員の目にとまる」、「生物物理学会の経済的、その他の負担はゼロである」。第 94 回日本生理学会大会の公募シンポジウムに応募した結果、採択となった。

14. 定款変更登記完了報告（中村）資料：報 14

中村会長より定款変更登記完了の報告があった。定款の変更において、「主たる事務所を京都府京都市に置く」に変更。「代議員の任期は代議員選挙後最初に開催される社員総会の終結のと

きから」の「社員総会」を「定時社員総会」に修正。

15. 地区報告（会計報告書類の確認）

北海道	資料：報 15-1
東北	資料：報 15-2
関東	資料：報 15-3
中部	資料：報 15-4
中国四国	資料：報 15-5
九州	資料：報 15-6

報告事項についての質問は後日、各支部長に問い合わせる。東北支部の会計監査の署名がないが問題ないか。支部長の佐々木氏に高橋氏より連絡をいれる。

その他
特になし。

審議事項：

1. 分子生物学会と生化学学会の合同大会について（中村）資料：議 1

2017年に分子生物学会と生化学学会の合同大会が開催される。生物物理学会が主催するシンポジウムを一枠もらえれば協賛という形で参加することを提案し、大会主催者から承認された。2017年12月6日～9日で神戸のポートアイランドで開催される。9月の末までにシンポジウムの内容を提出。理事の中井氏と永井氏から提案があり、一方、蛋白質科学会会長の後藤祐児氏より2017年度生命科学系合同大会に関する蛋白質科学会からのワークショップ・シンポジウム企画案について連絡があった。そのため、内容が被ることのないようにする必要がある。蛋白質科学会はシャペロン、新生鎖、プリオン、蛋白質凝集体などで、蛋白質構造も含める予定。永井氏より提案のあった企画は、新学術領域「少数性の生命科学」の終了に伴い、その成果を合同大会で発信するものである。永井氏の提案した案を候補として提出することで承認された。副題を「Minor要素の振舞いがシステム全体に影響を及ぼす思わぬ仕掛け」として追記し、9月5日に、2017年度生命科学系学会合同年次大会に回答書提出済み。

注意：シンポジウムで発表される方は、個人での発表はできない。

2. 平成31年（2019年）年会開催地について（中村）資料：議 2

大阪、群馬、奈良が前回の理事会で候補地となり、それぞれ開催について問い合わせた結果、群馬と奈良は開催地として難しいという回答があった。2019年の年会開催地候補として大阪に決定した。年会委員長はつくば年会時の第3回（11月）理事会で決める。

3. 出版委員会関連議題（永井）資料：議 3

今年度中にBPPB誌編集委員会を開催するにあたり、昨年と同等の予算（40万円）を認めても

らいたいとのことであったが、本年度年会前日の午後に会場を設けて委員会を実施できないかという意見があった。その際に中西印刷の細谷氏、島田氏も出席予定。年会前日に会誌編集委員会を開催することで承認された。予算は中西印刷の島田氏と細谷氏の交通費のみとなる予定。BPPB誌宣伝フライヤーについて、つくば年会で宣伝するためのフライヤー制作費1万円が承認された。

- 会誌編集委員長の辞任に関する規定について、下記の改定が提案された。

「2. 委員長の選出

イ. 答申された候補につき理事会で審議の上、順位をつける。出版委員長は、順位にしたがって候補者と交渉し、受諾した候補者を次期編集委員長の最終候補とする。

ロ. 次期編集委員長は委員長に就任する1年前までに理事会が選任する。ただし、選任の時期に関しては、編集委員長が任期途中で辞任する場合、この限りでない。」

上記のように、「ロ」の後半「ただし」以降を追加する。

「7. 会誌編集委員長の辞任

イ. 会誌編集委員長が任期満了前に辞任した場合は、次期編集委員長が委員長に就任する。後任の委員長の任期は、前任の委員長の辞任時から、次期編集委員長が受け持つ任期の満了時までとする。

ロ. 会誌編集委員長の辞任時に次期編集委員長が決定していない場合は、前項1および2に従って速やかに選出する。後任の委員長の任期は、辞任した委員長の任期満了時までとする。新編集委員長は、新副編集委員長候補を指名することができる。」

「8. 会誌副編集委員長の辞任

イ. 会誌副編集委員長が任期満了前に辞任した場合には、編集委員長が後任を指名し、出版委員会で審議の上、理事会でこれを承認する。

ロ. 後任の副編集委員長の任期は、辞任した副編集委員長の任期満了時までとする。」を追加する。

「8. 会誌編集委員の辞任」

を

「9. 会誌編集委員の辞任」

に変更する。

上記の改定で承認された。

次期会誌編集委員長・会誌編集委員の選考・選出スケジュールについて、下記が提案された

1. 会誌編集委員長候補の選考

イ) 出版委員長は、会誌編集委員長候補の推薦を、理事及び編集委員長に依頼する。

第2回(9月)出版委員会後に行う。

ロ) 出版委員会は推薦を集計して候補者リストを作り、審議の上少なくとも3名の候補者を選び、理事会で答申する。

10月末までに候補者決定、第3回(11月)理事会に答申する。

2. 委員長の選出

イ) 答申された候補につき理事会で審議の上、順位をつける(投票)。出版委員長は、順位にしたがって候補者と交渉し、受諾した候補者を次期編集委員長の最終候補とする。第3回(11月)理事会で審議(投票)、理事会後、候補者に打診、最終候補を決定する。

ロ) 次期編集委員長に就任する一年前までに理事会で選任する。

12月末までに理事会に報告(メール)。次期編集委員長についてご意見があれば伺い、なければ選任決定とする。

3. 会誌編集委員長候補の選考

イ) 次期会誌編集委員長は次期会誌編集副委員長候補を指名する。

4. 副委員長の選出

イ) 指名された次期副編集委員長候補を出版委員会において審議の上、理事会で承認する。2017年最初の理事会に諮る。

5. 会誌編集委員候補の選考(編集委員長と同様のスケジュール)

イ) 改選される会誌編集委員(会誌編集委員長、会誌編集副委員長を含む)は自分の専門分野または関連分野から会誌編集委員候補1名を推薦する。

ロ) 出版委員長は会誌編集委員候補の推薦を、理事に依頼する。各理事は自分の専門分野にとらわれず1名を推薦する。

10月末までに候補者決定。

6. 会誌編集委員の選出

イ) 出版委員会では5.で推薦された候補者に対し、審議の上順位をつける(メールで投票)。原則として上位から候補者の承諾を得た上で、補充すべき人数分を最終候補とする。

第3回(11月)理事会で報告、理事会で承認後、候補者に打診。辞退があった場合は次点の候補者に打診する。

ロ) 会誌編集委員は理事会が選任する。

全員の承諾を得られ次第、理事会にメール報告(ご意見があれば伺い、なければ選任決定する)。第1回編集委員会開催調整のため、なるべく早くに決定する(12月末が期限)

提出された上記の選考・選出スケジュールが承認された。

4. 男女共同参画若手支援関連議題（高橋）資料：議4

若手奨励賞候補として例年 10 名を候補者としていたが、今年は 11 名が候補者となったことに対してお認めいただきたいとの提案があり、11 名を候補者とする事で承認された。今後の課題として女性候補者がそれほど増えていないことと、奨励賞と学生発表賞の間にもうひとつ賞があっても良いのではないかという意見があった。学生発表賞の選考と発表を年会期間中に行えるかどうかについて、学生のモチベーションを鑑みるとその場で発表できると良い。しかし、一方で、選考（集計）のために選考委員がシンポジウムに出られなくなる可能性もあり今後も議論していく。

5. 啓蒙活動関連議題（広瀬・根岸）資料：議5

多数の講師を集めるための方策をどうするかについて、理事から適任者を推薦してもらうなどする必要がある。応募のあった講師が、生物物理学会公認の講師としてふさわしいかを定める基準を設けるべきかについて議論があり、学会の事業として派遣するので、なんらかのセレクションは必要であるとの意見があった。本活動のための委員会を設けることとし、男女若手支援委員が本事業に関わるという形で講師の選定など進めていくことに決定した。小中高とどのように繋がっていくかを今後議論する。現在、大学に収益事業を認めてよいのではないかという動きが文科省で認められる方向にある。講師へのインセンティブ（報酬）についてはどのようにするかについては、今後の課題とする。例として講義実績などをウェブサイトに掲載することが挙げられる。報告書も作成する。授業の例があると良い。ウェブサイトのトップページ左側メニューに「小中高への講師派遣」を追記する（下記の場所）。

男女参画・若手支援

小中高への講師派遣（ここに追加）

生物物理学について

6. 生物科学学会連合次期代表候補者の推薦（中村）資料：議6

生物科学学会連合次期代表候補者の推薦について、中野明彦氏を推薦することが提案された（9月23日まで）。中野氏を推薦することで承認された。

*追記：10月8日に開催された生物科学学会連合 第14回定例会議にて中野明彦氏が次期代表に決定した。

7. 企業との連携について（ランチョンセミナー、意見交換会）（中村）資料：なし

ランチョンセミナーは9件集まった。意見交換会について、年会3日目の午前中に開催予定。ポスター展示場と企業ブースが離れている場合があり、その時は企業ブースに足を運ぶ方が少なかった。本年度の意見交換会に次年度の年会実行委員長である山縣氏も参加していただくこ

とに決定した。

ランチョンセミナーの引換券を渡す際に、最後まで話を聞くこと、アンケートに氏名・所属を書くことを徹底することに決定した。

8. 予稿集の J-Stage 掲載について (中村) 資料 : 議 8

NII-EIS が事業を終了することに際し、今後は CiNii に年会予稿集の PDF を掲載することができなくなった。そのため、J-Stage に掲載することになるが、その際に費用がかかる。ファイル 1 個毎に 3,240 円。一括したファイルを、記録の意味でアップロードすることに決定した。

9. 臨時社員総会の招集について (中村) 資料 : 議 9

臨時社員総会の招集が承認された。

その他

本年 8 月 22 日に開催された日本学術会議生物物理学・IUPAB 分科会にて、曾我部氏から生物物理学会と物理学会の会員間の交流が疎遠なのではないか、との意見があった。物理学会学会誌には生物物理関連の記事が掲載されている一方、物理学会年会ではソフトマター物理の発表が多く生物物理関係は少ない。来年 3 月の物理学会年次大会は、大阪大学 (豊中キャンパス) での実施であり、シンポジウム等が開催できると良い。

連絡事項 :

1. 次回理事会日程について (中村)

平成 28 年度第 3 回理事会

日時 : 11 月 25 日 (金) 12:45~

場所 : つくば国際会議場小会議室 404

平成 28 年度第 3 回男女若手委員会

日時 : 11 月 27 日 (日) 12:30~13:20

場所 : つくば国際会議場小会議室 304

平成 28 年度第 3 回出版委員会

日時 : 11 月 25 日 (金) 11:45~12:35

場所 : つくば国際会議場小会議室 404

臨時社員総会

日時 : 11 月 25 日 (金) 19:00~20:20 (予定)

場所 : つくば国際会議場小会議室 304

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 16:00 に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成 28 年 10 月 17 日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成 28 年度第 2 回理事会
代表理事 中 村 春 木 (印)
監事 有 坂 文 雄 (印)